

句集

炎帝

yukari okawa

大川ゆかり

風は秋

鳥のかたちの

梵字かな

ゆかりさんの最近の句は個性に益々磨きがかかり、感覚の若さに裏打ちされた豊かな詩性を感じる。「風は秋」という上五の置き方も巧みで、「梵字」を鳥のかたちとみた思いは非凡である。

能村研三

風光るたてがみ強き対州馬

陣痛はよせてはかへす夏の濤

原爆忌みどりごの五指確かむる

セーターの中で目開けてしまひけり

泳ぐとはゆつくりと海纏ふこと

冬支度スコップ加へ北暮らし

白鳥はをり親姉妹をらぬ場所

雛出せばソファ―似合はぬ部屋となり

家具跡の青き畳や桜冷え

花疲れ包丁のふとおそろしき

ジエツトコースター炎帝どこにゐる

祭太鼓昂ぶるための静の刻

鳥の
みぬ
鳥籠の
なか
風花
す

聞き
耳を
立て
てを
りた
るシ
クラ
メン

うみどりの羽根混じりたる浜焚火

硝子雛影まで透きしさびしさよ

月朧わたくしといふかたちかな

口中に動く舌あり花疲れ

ほ
ど
き
置
く
粽
の
笹
の
動
き
け
り

日
本
に
端
居
し
て
ゐ
る
島
暮
ら
し

船首よりくづす捨て船いなびかり

秋思かなふつつつグラタンつぶやいて

暗幕に穴ぼつとある聖夜劇

かたつむり泣きたいときは殻に入る

脱衣所に砂の散らばる原爆忌

めかり神事

火を待てる楯の白さや夜の神事

今
生
の
わ
れ
は
双
子
や
花
柘
榴

春
満
月
足
裏
つ
め
た
く
眠
り
け
り

貨車駅に鋼のにほひ日の盛り

猫の子の跳び出して来し紙袋

誠一郎へ

背番号 15 で終はる君の夏

銀紙にくるんでみたき春愁は

春愁やだんだん見ゆる雨のすぢ

みづかきの生えてきさうな熱帯夜

噴水を戦ふ水と思ひけり

風は秋鳥のかたちの梵字かな

頭
の
中
の
海
馬
休
ま
す
滝
の
前

鶏
頭
の
考
へ
す
ぎ
て
枯
れ
は
じ
む

さざ波は鯨の尾より生れし波

立春大吉おしやぶりに紐ついてをり

てんと虫星を返しに飛び立てり

逡巡の首の角度に百合咲けり

紙折れば生まるる影や終戦日

秋風や引く波の音身に残り

天高し日の丸は目にしみる色

少年の指笛コスモス日和かな

草
ひ
ばり
闇
ひと
ところ
深く
する

星
合
や
グ
ラス
縁
取る
塩
の
粒

ゆ
つ
く
り
と
乾
く
捨
て
舟
竹
の
春

三
日
月
や
つ
つ
い
て
閉
め
る
貝
の
口

割れ石榴携帯電話の圏外に

ふつくらと実るごとくに今日の月



句集 炎帝（えんてい）

二〇〇七年九月二十六日 初版発行

著者——大川ゆかり

発行人——山岡喜美子

発行所——ふらんす堂

〒182-0002 東京都調布市仙川町一―一九―六一―一〇二一

電話——〇三（三三三二六）九〇六一 FAX〇三（三三三二六）六九一九

ホームページ <http://furansudo.com/> E-mail fragre@apple.finet.or.jp

振替——〇〇一七〇一―一八四―七三三

装幀——君嶋真理子

印刷所——トヨ―社

製本所——並木製本

定 価——二二〇〇円（本体二一九〇円＋税）

ISBN978-4-89402-946-0 C0092 ¥2190E